

生活保護費は現物支給か大幅減額を

普通なら月所得10万円と月所得20万円の違いが解る。

所得10万円で都会のアパート暮らしならカツカツの生活だが、所得20万円ならばゆとりがある。健康な生活保護受給者は月10万円貰おうが月100万円貰おうが月1000万円貰おうが日々の生活レベルは同じ。ギャンブルにつき込む額が違うだけ。

事実、生活保護受給者はお風呂にも入らず、汚らしい。だから「可哀想な人」に見えてしまうが、実は、国から厚く厚く保護されているセレブ層。

お金がなくてもきちんとした格好をしていれば可哀想な人には見えない。生活保護を受けてパチンコ通いしていても、だらしない格好をしていれば、可哀想な人に見えてしまうのだ。

健康な生活保護受給者はゴネて得するテクニックを学んだ『ゴネ得プロ』。

「使うとなくなってしまうからもっと額を上げてほしい」とまで言う。「使ったら無くなるのは当然でしょ」と返すと「死ねということですか」と『人命ネタ』で切り返してくる連中だ。

勤労者でも給料を全部使うと無くなってしまふ。だからといって会社に対して「給料を全部使ってしまったらなくなった、死ねということですか！」とは言わない。

人命ネタで悪交渉する手口を教えているのは、暗躍する反日左翼と偽装福祉政党。

国民は、深く考えずセンチメンタルだけで判断する国民総左傾化から早く抜け出さないと、ますます国は滅びる。

国民は政治家批判に傾注するのではなく、ひとりひとりが総理になったつもりで取り組まなくてはいけない。苦勞をかって出た人だけが見識が高いのだから。楽で安全な場所にいたままの政治見解は幼稚。

生活保護費が国会財政を著しく圧迫していることで、解決策として「本当に困っている人にあげるべき」という論調には矛盾がある。そもそも生活保護を受ける時点では、困っているからこそ受けられるのだ。そして給付が始まると、給付額があまりにも高額なため財政破綻を招いている。なので、新たなる本当に困っている人が全く受けられなくなっている。なので給付額を現在の1/4以下に削減すれば、今後、受給者が増えたとしても財政面においては改善する。健康な生保受給者はたむろすることを習慣としているため一人に一部屋を与える必要はなく集団生活をさせれば良い。中身のない人間ほどひとりを嫌うものだ。

そもそも生活保護制度の目的は、食うや食わずの人を助けることであり、ご親切にギャンブル費をあげることではない。血税がパチンコに注ぎ込まれていくことをこのまま容認しますか。食べ物と光熱費を与えれば本来の目的は達成されるはず。福祉とはごね得連中を「可哀想な人」に見立てて甘やかすことではないはず。尚、動物虐待者と健康な生活保護受給者はほぼ一致する。

必ず破綻を招いてしまう『金メッキ政策』ではなく、現実を直視した『一見厳しい政策』を講じるのが成熟した国家だと思う。苦勞を買って出た安倍総理には大いに期待できる。

〒 960-8066 福島市矢剣町 11-3 星野節子 024-563-7650

<http://www2.tky.3web.ne.jp/~meme/>

<http://ameblo.jp/animal-police>

「アニマルポリス 星野」で検索できます